



# FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、子どもの夢を育む施設「こむこむ」の施設ボランティア、こむこむドリームサポーター(以下DS)として活動する大学生、紺野早紀さんにインタビューしました。

### ▼活動を始めたきっかけは?

高校2年生の時、勉強だけじゃなくて人のために何かできないかと、自分ができるボランティアを探していました。そんな時、学校に貼ってあった「こむこむDS募集のポスターを見て、応募したのがきっかけです。

### ▼活動内容は?

子どもが楽しめるイベントの企画と運営です。子どもはどういうところを育みたいか、どういうイベントを開催すれば子どもの成長につながるかを考え、イベントを企画します。私はまだ企画したことがないので企画もしてみたいです。運営では、身の回りの物を使っのての工作や料理教室など、他のDSさんが考えたイベントにスタッフとして参加します。

また、館内の季節の飾りもDSが手作りしているんですよ。

### ▼印象深かったことは?

活動を始めたばかりの頃、子どもとの接し方が分からず戸惑っていました。そんな時、ストーリーを使った工作イベントで、ある男の子がカブトムシを2匹作ってくれて、私に「1匹貸してあげるから戦いつこして遊ぼう!」と声を掛けてくれました。初めて子ども

と同じ目線で楽しく遊べたのがすごく嬉しくて、印象に残っています。

### ▼こむこむの魅力とは?

こむこむは、子どものわくわくした気持ちと笑顔があふれる施設です。私も小学生の頃に学校行事で初めてこむこむに来ました。その時の感動を今でも覚えています。当時の私には、すごく不思議で夢の世界に見えました。特に4階の展示室の巨大迷路が楽しくて、家族にお願いしてもう一回来たほどもです(笑)。

こむこむのイベントで「はさみを初めて使った」「初めて料理をしたなどの「初めて」を経験する子どもがたくさんいます。ここは、その初めての経験と、大人では考えられない、



こむこむドリームサポーター  
紺野 早紀さん

子どもならではの発想力を引き出せる施設です。そのサポートをするのがDSで、その活動に携わることが私自身の成長にもつながっていると思います。

### ▼これからの活動は?

自分の目標としては、来年に向けた企画を考えたいです。大学で「食と農」を学んでいるので、それを生かしたもので、福島市にこんな素敵な施設があるというところを知ってもらえるようなイベントを企画できたらいいなと思います。これから夏休みが始まって楽しいイベントが盛りだくさんです。ぜひ多くの子どものために、こむこむで夏休みの思い出を作ってほしいですね。

## 市長コラム No.16

### 「2020年へ」

福島市長 小林 香



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会福島市推進協議会を5月20日に設立しました。この推進協議会は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「東京2020大会」)に向けて、行政と民間が連携して、市全体で盛り上げ、大会後につながるような取り組みを進めるために設立されたものです。



▲5月20日に福島市推進協議会の設立総会を開催

本市では、野球・ソフトボール競技の開催が決定し、スイス連邦のホストタウンに登録されるなど、これまでにない新たな取り組みが始まりました。加えて、市ではこれからの取り組み方針をまとめ、「感動を夢や希望に変えて、みんなが誇れる福島市を未来へつなげよう!」を基本コンセプトとした「福島市アクション&レガシープラン」を策定しました。東京2020大会に向けたさまざまな取り組みに、一人でも多くの市民



▲昨年3月に野球・ソフトボール競技の福島市開催が決定した際の様子

今後、スイス連邦とのホストタウン交流事業や事前大会誘致など、東京2020大会に関与した事業を推進します。復興が進む福島を世界へ発信するチャンスです。さらに風評の払しょくに努め、交流人口の拡大や地域活性化につなげていきます。2020年に向け、関係機関・団体などと連携をしながら市民の皆さんと一緒に「オール福島」で力を合わせて盛り上げていきましょう。